

Smile Woman! インタビュー⑧!

この人の仕事のかたち
どこか輝いて見える「仕事」をしているあの人にズームアップ。

Miki Kitamura

目指すは後楽園ホール そしてチャンピオンへ

テッジン岡山
女子プロキックボクサー

喜多村美紀さん

〒060-0973
060-0973-3100
teijin@seesaa.net

備前市の中心部、片上地区から国道7号線を姫路方向へ約4kmの所にある「テッジン岡山」。郷土出身の元関西ライト級チャンピオン、ガルーダ・テツ氏が開設し会長を務めるキックボクシングジムとして、格闘技フンの間では目置かれている存在。現在は、心身鍛錬のための少年達から、フィットネス・トレーニング目的の女性、そしてプロのキックボクサーまで、多数の選手が通っている。喜多村美紀さんはジムが加盟するNKB日本キックボクシング連盟で唯一の女子プロ選手として活躍している。



●キックボクシングとの出会い

キックボクシングを始めたきっかけをたずねると、「山口県の大学の進路が決まってキックボクシング部がある」とを知り、入学前が「絶対入部する」と決めていたんです」と明るく笑う。高校時代まで本格的なスポーツや、まして格闘技の経験は皆無だったという喜多村さん。しかし経験は積むうちに、ますますその魅力に惹かれ、キックボクシングに傾倒していく。

●プロになるため、新天地の岡山へ

大学でキックボクシングを続ける中で、しだいにプロ転向への思いが強めていった喜多村さん。そこで現在

所属するテッジムの入門を希望。地元福山や学生時代を過ごした山口を離れることを決め、岡山での就職活動を開始した。飛び込み関係者を驚かせたという。しかも当時、テッジムには女子プロ選手がいなかった時代のこと。いかにも「途で行動的な彼女らしいテッジン」だったといえる。

しかし入門当初は、厳しい練習が続いて、過呼吸になって倒れ込むこともしばしばあったという。だがその後は、持ち前のフィティングスピリットを存分に発揮し、喜多村さん自身もプロ選手として数々の戦歴を重ねていく。やがてその信念はジムの会長や連盟をも動かす。昨年7月には念願が果たって女子プロ選手としてデビュー。所属団体の枠を越え、強豪選手がひしめく「J・Girls」の参戦を果たす。また続く10月には3戦目にして初勝利を収め、プロとしての確かな足取りを踏み始めた。

●夢の実現に向かつて

ひたむきにキックボクシングに打ち込む喜多村さんだが、大学時代に学んだ知識、資格を活かして、プロ転向後も、アットで介護関係の仕事の続けている。またオースティンには友人とスライツの食べ歩きを楽しむなど、リングの外では普通の女性と変わらない。喜多村さんに今後の抱負をたずねると「後楽園ホールでの試合出場と、J・Girlsでランキング入り。その後は王座獲得を狙います」と力強く即答する。その活躍に、ぜひ熱い声援を贈りたい。